可矣記評判

へ遠13
1701
4

可笑記評判巻第四

第一 朱文公学文をすゝめて曰

むかし唐の朱文公といひし賢人ハ人に学文をすゝめ
けるハ人をいましめて今日まなばずして明日より
習はんといふ事なかれ今年いたづらに暮して来年より習はんといふ事なかれ
すぐる年ハあらたまれバ時も日も今日のうつりと思ひゆだん
なく学文をせで年月をたゞ一炊の夢のごとくすごし
く明てハ暮らすものなれバすこし油断のうちに年老の果
て悔るともかひなきまでなり人ハ年四十にいたれバ病あり
ならひてハかなハず又古塚を見よかならず
人此身をやしなはざるもあすもしらぬ命にて油断
油断の淵の

特 1701 4

評曰淮南子に聖人の憂ともすべきものは
すべからく陰を行むけの物にしてそのひやとされば地と
いつり来るみる勸学文とつてそのよすがをもつて
学ぶべきに世の人海内はゆくゑ知らずあれてみりて
此をもわるわるべくこの今日ふるく明日ゆめまぼろしの今日の力いま今日のみすず移
ゆく光陰とどまるもとどまらずいつづる年月と送り
ひのくれ老そこそこみは糸とあるきくに犬の老るに
ひとしきゆゑ也生るものは死すべしてあるべからず
ぐもつんとの初はあるべからずやそれで学ぶべきはもしろ
とふいあるべしよ四書五経佛經祖編神歌
醫方此書籍とゝみてこと新也とゝりあるべしもの

いつはいりぐ〳〵ず只中人ぶんとりわるもしりとつく絵
とすべ学ぶこと特わりつうは文学うつうは学ぶやもり
りひろくまるんで鳥くんぐゆよすてらく
思ひとるは名仁勇乃こと徳そのゆはは生ぐとつも
乃ぶんぐ〳〵ひろ只のみ本はもむはして紙今立章
乃書とゝみてりとも中ぶるそれてわるそうず和は
ゝしてそこかとのいこまぐ古人此滅を唱ふ
とつゆゆりとゆはとつくゆりいつもわるゝ時ゝ
とゝゝはつくゝゝつ人は書籍をゆりくゝみ学ぶ年も
後ぐ〳〵これでおるぐちは学ぶはへてほもりとこ云
はは乃ぐずとゝもこそ狂言綺語のあそびは陽とへ仏
も亦此勇ひれは何とゝもそうそも学ぶ文こゝろくはは迫づき

先賢の地ごとに立てたまへる○同じく
ものの興亡にてその地の山川弁ずべかりしかども
ぞ世にあるべきぞ
とひとつ半つのりてはそのづゝ立ちつゞき
大とも第よりも暴自暴とてあり世の人はさま
せざるものは二種あり一つは自暴とてその人ぐ〳〵
骨肉よりはれつきて人を賢愚とやはいはんを
つくる言葉の人ぐ〳〵やはいつゝの書ぐ〳〵や
大内の美像ゐは学ぶべしてかうびのうちのも
向うていは合の熊の如くに
しそるどつくる衣裳は脱ぎて裸をとゝぶ
うやきやうのうちにはいつゝ

つゝり食物は何なりとぞ生れ嗜してこゝろをこと
ごとくずと楽説てこゝろもやすず喜性はつゝこゝの
ゐらゐ元呂一まで大勇ありてたるこゝろをあひ
はずは田まはしやすくはたゝゆりてまゝの自暴の
教ゆりこゝはれつきやうゝにたゝゐ形ゐ人そゝれは
ゝこゝ見をこゝろにて生まれはゆゞしゝゝ根
みて退屈ゐやこゝろゐ性ゝくは中にこゝみゝこゝ
ゐこゝずとこゝゝ知りて一言一句ともやのゝゝは
これ自来とゝゝ尚書ゝくゝ天下地とはゝ
人ゝこゝも実ゝりこゝゝ人のゝこゝをこゝを人のゝこ
教こゝゐ賢愚とはゝ天命ゐ性ゝりこゝゐ
賢愚ゝこゝ人ゝこゝて中庸ゝ天地ゐ

きかんと云事なりされと今此愚人ハ学文をきらひ
つらく物ずといへん事いづれのなるぞありや
然ども天下国家の礼法政道ハみなこの人へ此聖賢の
さぶらふされしをまつる事ハならず天此命
を聖経とをさむる人ハ聖賢これを用ゐハあまた
今もいづれと学の道をまなぶにハ孔子此一語
ある感じたるもハ書伝の一句とをもこゝろざしをのづから
悪念ハおこりうき善心の生ずる也孔子の詞にも
餘力あるときハもつて文をまなぶべしとあり忠と孝とハ
道の本なり親に孝あり君に忠ありて後道のみを
とんにおよばず其のうへ此陽明の文学とものゝせず
文学の事も学んでこそ道とよしあしをしりみえ

又愚学の人さし物の弟子ハ下問に恥ずといふ事あり
をさしをしへとをしへて後人あまたたよりて
君の恩を忘りして此人をもしすきとそれおよびて
まさにおもふ源きよからず流きよからずあまり剣
乃中をさすあも路をひきたりせんぶらのごとくて
あづく海ハ千年渡霞をそぞ物するなり
ちのさきありもとをわかれてよりて登
孤竹此君をおくりし時の老馬の
よりて国よりくりを塞の地伏とこそぶりしハ
をかれて子ずかうくのきしりつてあきる
ずのら智をふかずしてハそのむずかしいあり
いそんや愚鈍なる人へ此学文をやめれて学文と

いつの天理や源乃性とそなわるとゝめん為なり
こゝ性とゝの出章此乃とおりとゝ山羽はいてりめれえ
をのづゝ陳ゝゝくめり孫みぐりの子ず忠孝此人
ざゝゝもまず軍陣乃場まろぞみくも天命と
ゝ為ぐ為に武勇みして来練なず死をぐさけ所
退ぐゝ後甲人ゝぐゝわず寛後為ぐゝ所のゝす
ゝと狂ゝ為ゝ御は死せゝぐゝ明ん

第二人此は善悪乃門戸なり事

むゝゝ為人のゝりいゝれい人のは一切善悪乃為入す
為門戸なり明為ゝに毒元をけつ垂ゝ為人ゝ為ものの
ゝゝ為ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれい云まぐゝ人此為所
あぐゝり表裡なぐ所ゝゝゝ分命とあやゝゝゝいは乃

肉ゝゝ為人のゝゝいぐゝ為此ゝ食ゝゝきゝ為をゝひ
のゝゝぐゝゝ為と飽色して為をゝゝ分命とあやゝ
つゝいは乃かゝゝ肉人へいぐゝゝをゝりゝ金云為句
とゝひ為ゝ文章乃面白所作ゝゝ為ゝゝゝゝゝ
為人為ゝゝゝぐゝも也ゝ為みゝゝゝ此為ゝゝ
く此章所のゝて平食し或い飢渇ゝをゝんてゝゝ所
ゝ食所ゝゝひ平後ゝゝ為ぐゝ所ゝゝ乃面人へゝゝ為
ゝゝゝりゝの為ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝこ此為ゝ為ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
為所ゝゝゝ為割ゝゝ為ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ為ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つくる所宮室より始まりて次第に廣大なるわざとなりてその
うつくしきをもつぱらとせり

評曰口はこの世をうひの門古はこれをぐちの
根とす中古よりは口と書き出入の門
戸と云ふ中ごろ

とかくてくるの別しておのへさやとよる中ぶ
ぶくぶくこそあれ人もこれあるべしつまこと
しては人をしてぐぐぶ同耳鼻を足とせるを
こまかのつひのもとつぐ天下同家の中ら
ふの一部一部丈夫をまつぐきの戸門戸丈毒
まくくくすあらんやいまこれ人のつ守

天下同家の中ら人丈おへ毒中一家こと
のこまかくくつまくくわよりも也ものの
武人所中みなりくんのこのひまくくこれて
くくくこれまにをくくいつをくくれ物
てくきの武人ぐぐすこれくくの別ておか
へさやとよる所中行はるくく毒にいまのをと
をくづく中地所受人をくくくて一句一言ものくく
あらひてくくくくくくの別もあぐこれまくく
くくくあくく毒くくくくくこれくあ
別ぐくくくみをくくくくくくくくくくくく
番ぐくくくくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくくくくくく

ざうりとりも人の為にもならずひやうなる事はすゝみ
ぎやうにしまんの師ともなるべき人は師とする事
なれども今の世には達者の事は必ず様にもよりけれ
ことわりならず佛法にて干支此地に蠑螈の類やう
なれば云ふに人の心ひとりのひとつに定りかたしも
まどはりて鬼をとりて家よりつゝ小手一つて顔
ちはれとる事たゝかひをみなしてむかしとにぞ手
肝要あり凡て銭ひとり為すると云はこの神
ありける紙は地紙ありてもつて罪科は人をも
いつかりゆかりとるに一く申くいしくわつさ
めぐり轉年あり坦ゆ登月ありと云事と云れ
ずうば天地神明の冥の照鑑をおそれよ

一 第三月すも為に同遊して行つてゝ年
むかしさる人の云ふには狂人もまた狂人もとまる事
そのかみ禅語ありけるにも江戸とやらんくらき所の
漢詠氏とかや狂人と言ふ町に小路をかけたりける
けれども是は三神をかりて狂人をかねつれば狂女
むかしの富貴人はいとくもかしこくとりつゝ海のり
え禅せずさわまゝぞうの事ぐらひもつとも氣配て狂く
めつるせずまわりもとりすみ給は文ひと神のくくも
かれは氣づかひて海くのくせ成すつされは狂人か
ゆもみなの事ぐらひと狂ずきせこまつさて世中
とうぶひとうしに大かかりても金銀をもて得が見
別ろこゝろくしみの家衣裳帰依実やうに人は神もし

ほどしめつておりるを小身にして、ありし金銀
不足の物がちになりし見物しらくそのまゝ如
とさるが故にまつとりゑて借物しての骨折を
かじ貢ぎ等にハ世話にて迷惑申者らしばらくに
此方に何ゆへと悪事とさいけ不なるとてすなわち不当
不功者なる故と人をちんとあくまれいよく家ひつそく
すなはち下賤なる心しらく迷惑をするハ落魄なるべく
実にすなはちくのかくて手ハ身分命をあるまじひおに
されハ遊山あくさみ夢のつくり諸芸飲食物のさく
ひとり分をば冥加に過ぎるなまでみだりくみだし
よとあく相応の事を守つてもよし

評曰狂人をしまいぞとの人を小身にして此方の
過者とやむとつゝ年ハ起請しがたきとくありの
此方にして金銀ゆへくるしく将来なやむるとを
狂人ハあまり小身にしてされどもや此方此
分際としらず人しそ狂人されこさ年ハ下臈の
諺に居る人ハ石亀も地だんだをふむとはさて
年取ずきわまりをみ分際を忘れて此方の人此ま
似せんと手はり寸財宝不足してくるしむ手お
かしこの事よりものひかりて迷惑さしてもおまて
小なる身ハ牢人へ追放せし者大なる時ハ身命をとしおも
只常不足と思ひ心をりたしは怠る者も荀子が曰
こゝろ知るものハ人をうらみず命を知るものハ天をうら
みず又いふく其上へ足ることを知って心おちつかす不満

家はとくつりわが年中身のうへをおもひてぞ
まことにおもひかけずしてはるかなるところへながさ(れ)ず
しかりといへどもわろき次第也

第四　讒言の事　付　聖廟九月十三夜の詩の事

むかしある人の云はく讒言ほどおそろしき
ものなし菅丞相天満天神とはそれ時平公
といふ大臣の讒によつて九州太宰府へ
流されたまひけるに時の御門は帝王にておはしましけるも聖
代賢王にて今も延喜のみかどゝ申す也されば
ほどの天神のやうなる臣下をも延喜のみかどほどの
なる御かたもわきまへられずして讒言にのりて臣下
いかなる表裏さまをまじへてしゆびにかゝりてしせふみたまひ

ゆかりもよくよく御たゞしもなくされば天神
のいまはしくおぼしめし流されさせたまひて延喜帝の御ことを
のこゝろにかけてうらみもなくたゞひとへに九月十三夜の
月のかげにむかひていにしへの都のことをおぼしめしいでゝ
人にもおしへ給ひしを詩にあらはさせたまひたる
ねんごろに

月光似鏡無明罪　風気如刀不破愁
随見随聞皆惨慄　此秋独作我身秋

まことにつゝしみてもみるべきは吟得深味の至極とぞいふ
ことなり

評曰人を讒するは身中の虫として鳥を蹄むるに似たり金を
とかし骨をけす讒の口をおそろしきものとし

人と酒千ものを射工とふ虫ありてこれ岩川
のほのぐらくてゆとふくてくと射るそのゆと
きうをもつ事不可思議なり蝿はくそ
てりまき蝿はそのうらわらき中火乃じと紙
地を腐敗するはきゆはいろはき糞とのうろき
ものはは又はきはき糞とのうす酒人ものうあ
ごとうはき中とうもわうあうはいはあすはは陽
永叔は憎蒼蠅賦とつくれりは聽談の話はつく談
記はうんできくはうれこまはけで猶狹はは
乃ち蒼蠅はは又の蛇ちくはれうすの舌
四つ目ちくちくは乃かくとうて血はは又ずとて
涙のる涙の蠅はは蛇はのるぶゆうあはぐ枝葉

明記は年乃器やは日蔭と人は迷酒ものはしてて
狭嫁地ぐはいうはて四書帝とはうてはう柳
は地ぐはゆうはは蛇の蛇はうこうは中一
うは形のは菅相と徒と伝じて流一乃方地と
のはひうとうやうすはは中院の時年はは世ふ
くれはは名へうて三代実録とつうて学徒をは
りうはぐ神はむはいうく逆話乃乃はうりはわて
当地次は九月十三夜は宴宿はあうはく月乃えう
三五は中はをうぐはは八月十五夜の月のうと
菅絵して九月十三夜乃結言はうはは菅相とは
はこのうは結言はうはえ

一 第四 石に蹴つまづきたる人へ叱る返答の事

むかしさる人のいへるは主人のおともしけるに石に
けつまづきぬ それ長屋の主人まへへわらひしとらへてけ
どなたまでつきたる人へいふやうは あれ石にとが
ありて蹴つまづきはさていかなる鼻のさきへとらへ長屋
の人のいふやう

第六 かの忠ありとも珍重をはらふべき事
むかしさる人のいへるは人の主君としておきてありて忠功ある人
侍をはなにとやら気をつくされて何事もなくそれこれ代の
人はよろこびありがたくよろこびきくやう侍も
ひとしと見ておもはるゝ事なくさへ情をかけたる泥や
さる海でもいつはり珍重をもつてうけとりて嗜

くらゐつきみちて君にはなれずそれさる大忠大功の侍なれども
あたらしく出来たる人にみかみなれも情をかけまじく候とて情
りもあつかひされは諸侍の気もちかはずして忠功をたち
やすくあるなり

評曰 かの忠功ありとも主君の情を気にかけて珍重を
はらはん事諸侍の気をそけ申さん為なる事忠功
より手まへよりのまた主君の主様なりともいつかはへある
大名高禄の家にまいらする法度を厚くあるもいらし
手紙あのく深田の中にはさまりてくるしきをあはれ
それどもさやうにもくりでゝもかき泥田のうちにおちなんを
一人此侍衆の深田の中にたちならびへて高禄をすてゝくりぬきを
その田底にふみこみて刀をさしながらもまぎれ肩にかまへ

つとめて法まづれまかりうの面をとをえ法ん人じて世よかり
びのうち不覚ものうを秘侍一人は奮一りうとかまん
やうに曙の中へ命をそそくめをへこの奮とうす
きそれバとてかりどうの中ぞ抑もかたくぬ奴うの心
さむきは法れかよれよどれて見づうきさを持ちり
力ちうこだもうへて抑の用はじうやうの中を
ねくわうが曲中うとじとうんぐよちりいまう処
ゆうーぐへ北あう一弁ちうぐへ北の神を持ちりうの面
はうとにうを修へ作せうぐひうくぞかぼしみ天正九
年三月は遠州へ言天神の敗い武田勝頼へうをて
晨子丹後守横田甚内所ちうぐ作こちうとうまーあよ
徳川御家ちうりかあうくうを晨子へ作かうくうら元

をそうぐーき軍みうくーこのうう面ぐうをけうあよ
横田甚内所ーうへハ承晨守が孫をうて横田備中
ぐ晨子をりしぐ日ぐうへ北ちうぐ敗方へ軍中
とうりめりて甲斐へ抑うへ勝頼こを体感ーのい
ゆううびうーくゆを刀とうぐうう言めーいうぐきて
のうをーまりていうくうを方うう抑とをーあ
てううを中わそれをもゆをぐーし面ーとよろのうを
うううずうりあぐ義方いううぐきりのをぐううとへ
ぐもゆをぐきゆをぐとうぐうへ北父祖へ晨子
みを牧をへうぐ紙ゆうへうーを左へ作虎作言ーうを
ゆううびうぐうれううとうをゆうう方をそをぐ
今年廿八さうはあると紙へうぐをとうーうーうも

けく今なるゝ天神の怒をかうむられつまりなき命を
ゆるして大軍をさりめも神のまそてりさうらく
能ありびけおつかこまち纔乃名ほむかずすさまじき
ばすの領をとて此家をさしよき給ひ人こま候よて
あるとさ大なるみなのるれバ武勇并自慢して御わびと
とりて家の歩かしともいさすづ云母の命やしおいして
いまざ先祖乃仁を忘るゝ四月めてみのこりまゐらとて
みな感激と申しみなとも忠常をてみよしるこれを経
給ふも忘わのゝ也つゞつてくる物を経うかづりと
よるくとさの情ふ〜とつひがしみとこれを遂とる計
とよくともさぶめかゞ上とさのへづつひ侍乃恵むひ
らくも別おゝるづきま事也

第七入徳門のまへにて袖をつらねし事

むかし君此所にしてうきにいづかれてうれわびさまよ
ありつゝひ入徳門のまへに底なくおもひすそしし初学徳に入
門といふ扁のみしおかりて人とかつぐ書きの題とえ云ふ
風をひきそひつゝひとしみ此所東よりいりとさくさまわる月の
うわ池の猿をふろさしきを玉めてし人をほふらんすと
よまれて

風捲寒雲池月澄　烟波洗雪柳條輕
門前埋盡人無掃　思得讀書得夜明

第八富士のやまをすかしゝ事

むかし越後の国なとゞ峠の森のうちに天狗坊とて高さる
ふるさは山ふありとうかゞふなるのかなる大揺動ありり

手のあがれよとみるうちにやがて向ていろくいろ仕掛
張りをりしかの習ひやわらあがりてうくうすれおろひき
さらぐをうつくしくて諸所もろいどに細工の手を
まぐも独人ふりけまぐをうつて人として手のきり切と同なる
てうろのあへのがるかに有ることもそれきんくとそ
ひえ嶽をと碎くるかにろ木ばかりの枝をのり苦
むりて寄るとひくつまめあるくうくうが深くうろ立
ろもみて如不へうしのうきゝはわり山ぶ手のすり
切とふれへのがれとふわやうくうひそれど歌よりでく
のがりぬ一乃あげろへのがせくろのわゝとるのて
ろ乃ろへうびよとふうふうがてうもぐまうぐまうろ衣の
わゝとうびようふうろ九よるぐあわがくうびくまぐ

みろのるはうろのもとうつりふうぐりれうつくるふう
つくわゆうくれども手くせずいをゆる年ゆうくうへ
ゆはうくうひうう貝ふうさぐ苟毛の所後ろと称みし
ろ乃るはうろの一ろのへうてうぐりぬうぐくゆうて
又右のるもとれもるれもうきうふもりゆのうふ面うはひると
うろの一うろ言乃うろうびうるのはもうふゆぶうろくゆう
うも乃毛ぐりうくゆり行へうとりうくてもぐりゆの
今ろうう計ろ吸くゆぶうう集所りもてわやまうちする
貝へてゆるうろうふもり切りの面うゆくゆりつうて云
やういるぐや梢日ゆりてゆるうのあやうきゆの初と
うけてもゆううびへぐ死うろうふみぐりうへ乃まて
いうろうへうげよゆうれば山ろうくうくれば張

くるまのめぐりハこゝろあり留(とゞ)さう人とさらば錢一文も錢
數ともみさりふつきよまかれ一文まゝくつ手ハ只今おれ此
ますゞにのかりよはそあちゝぶりどの辛苦(しんく)とさふ
ゐづしきて此一文錢をつうんとさふ所すぞ右乃ようそうえ
よふおれのえぶはそあさん人と手すふん化せよふ所をあせえ
みちゝく死(し)すりハ必定(ひつぢやう)也まろそのまゝく一文ハつうかす今
あうけて大切(せつ)と御ゆよ當(あて)ばくハけくろびゆりゝくおぶにありて
銅をゝきくハ樣子(こゝろ)よゑくおやうくゆよふちハ沖(ゆく)川をゞずあ
やすちあし百年のうやまちハくゆ手すゝきとくゝろよ所り
鞠(まり)を蹴(け)りふすみ此とふりとけざあして沒ちまん沖(ゆくへ)
まかりゞにりあすゞくゆ手すき末あるく云のかあすんず
あぞまうそのまゝく錢を◯くあくさん人あゝかくもおさあと

云つぞゆゑぞんあく弟子が蛙(からく)そゑよりふ利そくとどうりこさま
ミそふ此留(とゞ)さうえ此ありひとうそるとぬ
許(きよ)曰此一錢ハ香巌(きやうげん)よ樹(じゆ)乃語(ご)ともうじみはまゝく芽の
ころくん乃まのかり乃錢(ぜん)と書(かき)まゝしつゝく一錢(ぜに)ともうるこゝ所ゆう
げまも一文(もん)乃錢をみぶりてこまはそあさぢこ所ゆう
半千(せん)錢(ぜに)此ちゝ手もうひ百(さ)人此おれの樣子のかりちの
ますハ一枝(し)とゝくへあんがゝくまよせさおれそぞまそかろ
はまゝく寡此大福長者(ちやうじや)乃あゝかりま錢と奴(やつこ)のまゝく
してつうひあらのあかりもゝおゞありく貧者(ひんしや)とまなうう
ゐゝくず亲のまゝく神のまゝくゆそれさうとみゝくとそうべ
ゆちのうことあれとい乃う魯褒(ろほう)が錢神論(せんしんろん)ハ錢
をゆうと兄(こうこう)乃まゝくすゑ字(あざな)として孔方(こうはう)とらへこまは先(せん)あゑ

こゝろハまづしくしてよろしくこまかなる人ハ富(とみ)で強(つよ)し
つゞまやかにしてとび足なくしてもしハ厳毅(げんぎ)せうなるを
こゝろ兼約(けんやく)の人ハひろく讒(ざん)かわるきものゝおほき處(ところ)に讒
するものハ讒をなすといへり何(なに)ぞよく不彰(ふしやう)と
なる人ず和(わ)をもまずれ銀辛(ぎんしん)なるをゑらびて讒かゝ
もしあれバ類族(るいぞく)なき人とももうみせぬゆうぬも人するも
ほどよくめ世相応是非(じゞぬ)もとにても人よりさるまをそれ
かやうなるハみな讒のちから也さるハ才智(さいち)ハ臓腑(ざうふ)仲(ちう)ぐ
しく武勇(ぶゆう)ハ天下(てんか)に好(この)むとも讒なるもの
ふせがれて世にありがたきまゝもなきものゝとや
かなまやかなるも人の欲(よく)がゆゑれども死生(しやうせい)命(めい)なり
富貴(ふうき)ハ天(てん)にありかならずしハ富貴(ふうき)するもあるまじと云

第九　利欲(りよく)なるをとききくずくてなりの人此章
もうしきる人のこゝろハひろく世の中のさまをよびんとす
一万石ニ万石よりも乃ちとめてさき御侍(さむらひ)ハみな利欲(りよく)な
ふをりきたしてこそ諸人(しよにん)をもわざくし主(しゆ)ハ身(み)をあつし
そうろ人すの人ゆかりし又百石ニ百石より内そとの給(きう)ハ
あまりはさきぶそてそしてあしる家の掌(しやう)握(あく)ゆてゐら
ふるをあわりきるをおなくてまハあそれこゝろあづる
たまさかしくしてめとをあつしまるを諸人よろこび
うをし給ふ
評曰　一万ニ千石の家名を此ちとづ利欲(りよく)なりし海
せうぞうおす百姓(ひやくしやう)をもせざりとりめりく辛(しん)する人ハ
あかれこまの降りのかき仲也讒(ざんげん)子(し)番此志(こゝろ)気(き)もこまの

おごりとこゝろあらためぬ百姓をしもかくしつゝしとさひさ
あつきどもありつゝりては天狗雷をおこすとやかの
ものそ都をさかりあつまりていつものことくや
とやかてくつきはわれらのおほきなるにむかひて[illegible]
とうかつきてやかて家にし美國の綱つなしへよりはし
ありさまは何事も詩人[illegible]のことくなりし[illegible]
さまありさまのうへに後漢の董卓といふものの利欲は
かぎれて百姓をむさぼり西都をもしてめぐることは
なく人を殺す事はかりみちて他事にかけては[illegible]もなく
く[illegible]の中に表厳にかの[illegible]に呂布といふものの董卓
をうらみかくれて百姓どもをあつまりてうちひらきをとりさ
ものゝ子なるかずかずまきもの表題とたもたず[illegible]て

酒と宴のたのしみのみにふけりてひまなしと[illegible]
いひつゝてまつりひとつもこれをうらさき國をほろ
ぼし人をころし虎狼乳虎狭面のことくにわかれて[illegible]
悪名をのこして今にいたるまでいひつたふるものなりとや

第十 好色無道の事

唐の玄宗皇帝此あひだ[illegible]備[illegible]すなはち楊貴妃にみだれ[illegible]
すなはち神仙の[illegible]にもあらねどもひとへにおもむきは[illegible]
人をしてはかりごとをもとめしかども[illegible]
法令も[illegible]もなりやく[illegible]
事を[illegible]
好色無道とはあれより[illegible]
[illegible]

おろかなるものなりと雖ども所の用ひ方にて
ごとけものなれども主君なりてきき長下とよちはなるあき
歌をうく紅葉とうり結ぶあるゆつるを色をつくて
冨きかるる人のたるをもかるかるかる

ちゝ人此ものゝこのみ
このみ不ゝ
ゝ呂ゝ三わり片ゝ人ハ呂ゝ
るゝこのゝ味どこゝ
ゝ賢人とこのゝ
ゝ
ゝこるゝ味ゝ
ゝ
ゝ賢人とゝ
ゝす國ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芋氏仕りそ石垣場の用ゆうそ仏
評曰儒教は仁とうい備書のは意味とつふうに
あられうふ仕りうう仏とふこ事して大小あるよ
川芋の稚へと負こすこの事毒物ありあ所の
すやゆ毒物のうのつべき者ありば負こすを犯さ
えれこ生い小意味なりして負こ仕してこうく
いうの人儒ありつく側隅の機とつ事側隅味
揚は仁の端也とつ仕りそづ仕る者あれこのれ
こ仏ふへ仕る者あるつくあれこれいゆうへ
きキ和のの地ゆ和仕る意味はゆうのあるつ
らぐ之手等ありすこ毒ありわくそのゆくみよ
あつふ事と仕いさもあ事合は意いへつうの

世ぐりて尤うのひぐくは事はうくこまた
次は逆妻帝代は事仏小意味とへいうでう
さぐの人今世とぐも延長暦の治世ぐめぐ
きくはり引ぐ仕ぐるこ事そのひうは所ぐこ
万年よくくぐ者地者の相ることれは終仕
世ー家ありひつキとりつく行政と小世とこあ
山やりうう新の第のくくみそのぐ宅じ
て言ふ事キ二百のうち時ふこれ系は狐仏
世変とこうてこ世長下は曼子とふへは向時
くこ事りぐ言ふ事はぐも文に生ぐ仏すは何
有ぐこのすへ曼子ふこうくすやういうへ
賢主有代天下とうふはうづく食う

飽て万民の飢こゝ[illegible]ゆ漫
しく旅人ゝ[illegible]ん[illegible]ゝ[illegible]
今[illegible]力よ物[illegible]ゝ[illegible]飲食よ飽[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

乃もろかんすると統人いりまるとや冷よ侍百姓の
いたのくるの武士ろ乃ろあるよりぜ町人ハ元
ぎるろ下乃ぬあるるのめぐるぬあぐるの也冷よ石
垣塀普請の事ハ絶と無ぎるに神事ろ日ぬ志
りこのるろ下ハ武士ろ乃ぬるるとてはるるの交遊と
統領乃ろ下ぬるるとて
ろぬハ山事也武士ろ下とろ迎ろる惜事ハ武士ハ武士
ろ持つるりろひ将軍ハ城郭ハ法ろ乃ろ人ろよ
るるるる

行みるかみるかもひ新とをるひ事ほうひ拙わさ
をつりふくををん欲人公乃ものきすへ乃ろうを
けるをすぐれうこ注ろ所のつをれうかも也をると
めるとうをん事ふぐくつてかりまを恐わうよ
事かり

評曰奮猪乃事ハ代ようみるを呉国ヲ朋ゆ
くこ注ゆりとつてぐもうを情ものき殺せいつしむ
づさゆとや釣ものれぐを流事ほをてず也をれぐも
宥をと祓ぐををそわるに呂をの事ぐをとは
をつよ適すかぐかに生ほをうをに非ををんハ
海をに重喪のをぐをしをゆるぶはをく苦のよりを
けるを雅房をるぐんハ好ようくををへうてをるも

かをうぐやをうをぐけるをを乃迎若をうへをを今
後ををきをと乃ををつををれけをば何すぐ
とをを也好事を何母雅為を奮ををうんををを
犬乃わとをう好ぐゆ何をと中位乃完をり乃位
乃つををれを何ををうをををををを
日比の中乃乃も毎ぐの畢遊を乃をぐりをり
ぐをを乃人奮ほをををれをりを何ハ思ををれぐ犬
の見ハ語ををを也虚をを不使をれぐを事何すを
きを也好ををを也好事を何をのゆをハをををを
を也ををを也好書乃ゆ陵ハまををををを事を
引を成をてををを文章ををを好ぐをを
唐乃をを家ゆ也何を貞観二年のを文乃の弟書

遂安ゑもんとゆふ人あり宮觀と詳退してうこゝろ部
ま書と称して幾年を創業ありその餌ま物と数
ゑ四半ゑゑゑ

ちゅう中風をうまつりあつまるものはやがて大のうち
日大佛すとりまつるあいだ気絶をナ部ちつせく
くやうせまつるべきいハ金ぞてうくるべく
ばりとやんあんうもづ意乃ちあるずと云
ものぐりは非をとつむづ
命すこめすくよさ風くわる牛
ひとうろくのこのこの望くもは行くりう言くれぞも
をのまづ意はわるこの眼をつくめこ女ふ元とて
ハ眼とりをめ形ちをいハ月めまくよ我れよわ
をこハ耳をうぐを金ぬすつのしわるさすと云ふ
をのづ意はつで耳をうひ同やをいハ耳温くれを
くれどもをのまづひくちねぐをうはめくれを

をのづひくちれハをは井よりめあげをつをは風ハ
口めすくあの老おぢをのりをは伽藍地ハをを
をぐもうをこりのを牛くみりを風をぐれて
しけをぐもはをあぢをのまつうくハまんよのまを
をりをうい自ひつをけまぐるいをすぐるいをい
をくハ鼻めすくを釈兄老くをるをのづを
をこをのをを足をぐうををりて世ハるめすくは性の風
いりて杉の月をを世一は西牛をうを風ハあめす
くひあ世をくハ母めすくは地ハあるすくを賊突とう
ぐひとりづりと望くをくしをふををすを列あ見
評曰佛絵よ古賊をとを
振ハこををんはのをうを地ぐをぐひうを大温賊をりとん

つり目なる成足耳よ都とそて鼻は白ひとそうぎは
耳わるひとなるあ月にかりるに成れ人は方す
と張ずること此古根ハ見ぐ月此伸ゆ形るめすへ人ありと
張ハ初ゆ形るめすへ人ありされ多都白い色此ゆ乃
古張のめすへと目耳ゆ色乃伸の古根乃めす
人引ゆ里成いてして縄根まられへ此筆とれて
し佛は功徳乃あるゆ和をそぐひとるり榜巖は
をそ耳ゆ一根みゆと耳ゆりあれハ古根解脱
と成ずといつり一根とい云乃年也へをそりて
は性空乃ゆりふゆりをそ古根ゆるに解脱
ひそゆり耳ゆるゆとゆりの七根ゆハさ成くこ此
成ひ和ゆ今ゆいくゆ書にゆるゆ指ぐ此めすへハ

物をゆいくゆるづむじるゆ見ゆ此めすへの地と成るか
ゆへ成いるゆ地ゆ女ゆ見ゆ忠孝ゆ七ゆのゆるゆ忠孝ゆ作此
をすりゆるぐゆ忠孝乃をゆゆるれで月ゆ耳ゆの
めすへゆるゆ面を耳ゆ形るゆ也
第十四　無常と就して腎兎をさ成ゆるり
むゆるへ乃ゆ成ハ物ゆ成ゆるゆ成ゆ剛ゆる
ゆひ雪成七ゆへゆるゆ古ゆ成ゆるゆ剛ゆる
ゆるゆるゆり四ゆるゆて相風ゆをゆゆの乃月ゆ
ゆ形ゆゆゆゆけゆゆ無ハゆる乃宿一ゆゆ風ゆのゆりび
ゆゆゆゆ伯の命ゆ生ゆて成ゆへで成ゆのゆを形ゆ成
ゆへへゆれハゆ罪とゆゆゆ虎ハ毛と地ゆゆて成ゆゆ
ゆゆゆゆゆ伯ゆ命ゆ成ゆゆゆゆゆ成ゆ

命をながうするみちをこのくすりにあつるに此ゆく者
のあるなかにあるひとのうりはてゝ行ふのうりて行麗なりはしり
てもむさしくいきたるとき耳よりてもかぶりて後は生命
と銭をれいづかぶ毎にあるべくくに根をそなへて草木
のうりあるの漢の徐すきひ来陶弟云ぐ八万四千の果を
まるうて見るうに人形ひとあるとひ列此くの年をうりつ
るも死つるを問かせうじ松子松をつ弁は松をれ根松
日新すつる此新すつるのうりえあるうりうるを
定命六十年こゝにていたるのこと何年とも
ものこと十二三までいたるのこと何年とも
万年にてあるとの長生人
神仙死せるを問ものを年とうるを待人神
人とうるまあるべくうるべくくに感慨
妻乃数百十九人乃数七十人の死しをそれて生
数をよ和一をべかもあり和とや長命仙乃巻わる
命ありけるい和乃りしくるべくくに十年あるをれくあ
ちの人をうるけるを高間乃高ものりをいる定命
六十年とつるを論をれとうるをそれはるべくあん
のちの乃也つるをやるの人をれくあるをしらず只人
五十年也とうるを長生をしるを仙をう樂

何ものゝうどん屋世につねのものゝ目あてなれば何のあらしに
ちつとも人ゝ出ぬ事なれ〻狐人形ゝふつゝらずいろんで腰痛と
もづて剛ものゝ人

評曰世乃豪者ものゝ長所銳ぎれいさのゝ目敬ものゝ
きつゝあるきゝ〻ものゝ長所ものゝ狐人形ゝもつて明ものゝ
ものゝひとり長世ゝ体稲ものゝ明ものゝ長所ものゝ
病もさゝあゝ剛ものゝ長所世乃人十人ゝ
八九人ゝ孫のものゝ長所ものゝ長世乃人ゝ
ゝ孫ものゝ孫ものゝ長所ものゝ
あものゝに敬ものゝ人ものゝ孫ものゝ
ものゝ孫乃豪者ものゝ人ものゝ孫ものゝ
金乃えいものゝ人ものゝ

ものゝれものゝものゝ孫ものゝ人ものゝ
ものゝものゝ学ものゝ孫ものゝ孫ものゝ時ものゝ
ゝ孫ものゝ人ものゝ孫ものゝ人ものゝ
ものゝ孫ものゝ人ものゝ心地銳ものゝ世の人
ものゝ人ものゝ人ものゝ孫ものゝ長ものゝ
ものゝものゝ人ものゝ孫ものゝ
ものゝ人ものゝ人ものゝ
ものゝ人ものゝ人ものゝ
ものゝ人ものゝ人ものゝ
ものゝ人ものゝ人ものゝ
ものゝ人ものゝ人ものゝ
ものゝ人ものゝ人ものゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文章とうさうしは紙は後漢の元興年中
蔡倫とゝふものゝはじめ布帛をもつて綱と搗てこ
て紙をこしらへ初めぬるのゝみは繭のきぬ
これば紙とゝふなりと今も糸紙は書かり布綱をそ
紙とつくりもり中紙も書かり布紙は光漢の武帝
咸陽は絲鞋の書とゝふなり注よは紙はとゝ
きこゝもとゝもわ絹は清潔の軍中は紙はかるとゝ
紙乃毛とゝ破るとてとゝ反はやまり故了

第十六万年は師匠とする人

ひとゝ人の人向ふ師匠とゝ云ものなくてゝ
手をかるとゝはとゝりかゝ根年の師匠とゝ○のもしを
根年の師匠とゝ絹は師匠はゝ師

匠とゝ師匠とする人は師匠とゝ
とゝれとも習ひはまるゝ人ふゝ師匠はゝ
師ゝゝひとゝ師匠とゝ師匠はまれ
ゝとゝ師匠とゝ師匠はまれ
とゝ師匠とゝ師匠はまれ
とゝ師匠とゝ師匠はまれ
と

びらうすくひらしてなをびらうすくし
やうゝかりそれをすてゝ出すもの
をそつてくゝ足ゆびして後しの事
きゝあつるむけうれしみ師匠ゝ
をゝ下国乳をもかうしるの分のをのひを足をひこ
ひくゝ師匠はやをものはをゝ
市河乃人さゝふぐそんいをさぐ乃をのくゝ
ひしるやうゝめて多夕あゝやあ市乃食物みくゝを
男乳の形人をとりき付をつりをて飲物くひのぷゝ
やつぷゝをきゝ衣類懐東乃をを風情をてゝ
人乃乃人をを言をあつうるれいうをくゝ
乳をつをくゝ足をひぷゝものみて悪ひ師匠と

物をつ物をを屋いをのををくゝ歩くゝ人の言をを一駄
もおゝ寸法をゝつをて言ゝくゝ歩ゝ但おをををつき
ををゝぶをて言をれいを人をを足をいみ足をきをれいをゝ
物ををけゝくゝ市場をもををつをくゝ法をわゝ乳をを
男をゝ人をつをくゝ法をわゝ市をををゝ
をわゝ言をゝのをゝ言をゝをゝ言をゝ言をゝ言を

人くすべ

評曰師遠乃根本おいんぼもつくせよとつふ事そ
の秘やしるしみくりとつでもんふこ主善知識み
ありて也あくこちひ主こくらひ
主のわれで善よひうつ也そうも人のひらあつよいきみ
ゆすくこうまいゆみくこ海きくくこ師とのうあ
ぢわあつべくくぶこうの人ゆうのひつうけくわうあ師あうと
いつぶ半くんいうあつぶうのまづこのむ家よいひうき
ゆうこふゆありたうむいあ也もわづきくゆうあ
ふありべこぶうもこうも聲聞菩薩馬耳風お
ゆづ物こんに口傳と受をわうゆ事あれい海きく
師ゆあうぶしていうのくうきゆいふづくす

これで人のうく号ひぢくうくみくこうこを
とうう事あうくうく荀子くうく山ようりぢれば
天ゆうこうこふしゆ結ようのりぢれい池のあ
つこうこふしゆ先ゆうの迷をとうこうわで言同
乃天ゆうこうをうこうずこうりわうんとりつく人乃
言ゆふふ乃ゆうこいゆうくはゆむうづりみて
乃ゆいうふと利こくふ古人みうこの師とよ里乃利よ
りうんゆこふく師とうづ○こりこむうゆ事ハきこ
そのつこうふこうの伝意口傳乃秘意あふなり
うゆふしこずハ海こうにたわる人よあうず

第十七ゆ年うり事藝とはゆむくゆ事
りこうる人のうを七八業代こうよ習とせこうてつうと

きゝゆわでゝやらやとつゝく意別とあらふナこの此
うるのまれバうさぐづかうとうせうと狩さま
まぐおうりとこ海ゥ牛つゝくひんとす狭炮とうゝとれ
ば中間とりつく中とりつゝゝゝゝつ名ばとつゝす重
ぐ見ゝやきと牛ーんぐゝふて世よとゝへど世
ゆゝく仕ほゼとゝゝ子世ゝゝゝ海ゆやのつふとと
見しずゝふゝてゝやうるくあるやとゼつゝんしを
まぐゝゝつゝくゝゝぐんゝ智の牛ー意別とゝすゆの
中ゆハゆゝくゝ文文章牛まま奥ゝる衣類ゼ財ゝのゝゝ
見くゝゝ牛とゝゝゆつゆゝゝりゝとゝへゆゝゝゝゝゝ
ゆくゝゝんハうとゝ海ゥいゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
神ゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

打ぐ迫りに成りて射る人は敵乃ちかしこ
猛くあまたずいとあし鞭乃ぐ〜ろ搦へいつをるとり成
さ成るゆつろ成り乃欲ちづ成りもて退くわやき
命いさりとろ〜迫々ほみ鉄炮乃手は国ぐし
石火矢茶ゆちて二三十町ぐらい家の矢ぐ
あ〜こ乃屋ゆどほぐちゆづり雑へづ〜とゆど〜わろし
い咯言ゆじ〜く女ろべ乃きもとゆじやう〜軍よ
ろんとの月立城へ〜さわぐ中ち国云接列ち成の
城は多くは大てつろ成ゆ人ぐ成の用よ〜てろ
変形ちゆづ〜乃みよはか乃大角ぐ成の用よ〜てろ
この比九列一成ぐ一撥は成服ゆ〜せて乃大角成
乃用は成てろ〜ろもろ成ろ〜ぐず城中の中

筒ゆ〜ぐ〜ろ宰はみゆ〜ろ〜ろ〜さまあ〜れぐ成乃大角
とゆすはれの面〜ろ細〜ろ〜ぐ〜ろ〜ぐ〜さまずと月成を
の〜ぐとり成り〜を月はゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
月あてはやりやちさ中筒〜て宰成ろ人ろれ宰去
乃宰双乃甲列代玄乃成ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜
三列長篠ゆ〜ぐ成合戦の月成廣云大利とえ〜変ゆて
中筒也一〜せよ校景勝る此〜ろ亜江山城守と市羽
乃忍家〜乃成を義光〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜
次石成つ〜云一〜ろ乃ろる家〜名地乃城とせ〜ろ〜ぐ
則そ乃城は〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜
ゆ九の成ぎそ〜で〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

とりすゆかりの楯ついて城乃矢ざゑ〳〵てつゝ〳〵
いつみやすひとつをとゞうず手ゐゞかるよゞせめゞち
大ゆみてもとゝゝあぎく面をすれゞ此責口より
きゆゆゞ面ゞゝひゆゞ仕ゐるゞゞのゆゞ
ち弁右道もわるゝしゆ城はこのるゆゞゆくちゝをゝとゝて
ゝわゞ敵てつゝゝとゝゝんゝてのとゝゝすゝ乃ゞゝ立
ゝりゝゝは春のゝゝゆゆゝいつゝゆゞゝゝゝゝゝ立のゆ
いゆゆるゝゝくみゝゝゝとゝゝく足すゆ一狭炮ゝてゝめ
矢ゞ面へゝゝむゝひゝゝゝすりゝゝゝ乃ゝゆゆ矢ゆゝひゝを
めゆゝゝは薬のゝく詠てつゝゝゆゝんゝゝゝ問乃
ゝゞゝゝゝゝゝは乃ゆゝゝゝゝゝ

り美そびくうちえまでぃたうとうろうのせとうまわれ
るものをわでいそんやてうぐのえるぐに手の美風
ぬきのりやすえいたきくあり見せくしいとのりやすえ
わりとも人つるわくずハ何うせんみ名ぱ乃事ハ水千
八千みとうつすりうわく名ぱとのこ見一人とりつく
とやくこ成第一とあ一ものむ一さて学問のすハ先ぇ
武藝とをくしゆりてぐそんもとうつへき年ぬしり
りとづきやすぬそれ至徳喪傷ハいくこうすれとう
をるとやさりぐ何ぞ一部帰ん人ち者わやとりや
海ハ人を生すれとやす
評曰人とりて武勇ハ人いくもをのさとな
りとのきぐーわう年虎翁の狗ハ文いまぐるず

ちくこちも食牛乃意ハり侍鶴の鳴ハ羽翼いまぐ
をのずして遠くそれんはりとふぐ一さねぐも
をのかりけんぐ武勇ふく岩出のやりひのさ人
わりこ生一まぬ乃勇みて一方乃ちるこりり古年
とちぐゆり罵詈ぬ日のずをゆへハんぐーちぐく
性をしず物をわくをむちひをけまバ軍名親
こつりずりとみとあのく岩ぬ独分みてあるる
ちくをの一或ハ又ずを智わりて武勇乃鉄さもり
みちぐーきちわりても智のさもみる
勇者ちん乃相をりき軍ハけまつき武勇ぬ
智を思ぬくこちもぐーきとりつく良将乃器
者とあちると古辛ちの方乃ゆちをひんぐ此

[illegible]侍ハつき毛乃馬の[illegible]
毛のうへに乗ものを乗ものとなしたる也
あやまりなくして軍ばよくつゝしんで軍ばの事なり
[illegible]氏幃幄乃うちにはめぐらして勝ちはよ事の
ある姿なりといふこゝ良ば乃事也そわるとなく
いつもわるいときはつゝ乗ものを[illegible]と[illegible]
親乃いつまでもひさしくひさ事一こゝ書乃化えれて
さものぐらの事よやうにうまぐーの伯父と頼者迎
と言ふ[illegible]乃小児成人て一回一郎乃[illegible]
ふるとしもやなぐさわぐ[illegible]乃勇ハいぐ也
うまを[illegible]ふるはまわるゆ也まして伯父
ふつゝも[illegible]ふ人させます[illegible]侍乃詩藝ハ

つきみハ[illegible]別ふ[illegible]ぞ一藝ハ[illegible]
うりえわるへとふものありうてつゝうる物乃刀
ゆゑて[illegible]ふるとふ人いづまて[illegible]
ぐらゆゑ[illegible]中古乃軍わるゆ[illegible]時乃事
やなぐ小弟の氏[illegible]ナ二軍のけ[illegible]
ふものせよめぐ[illegible]て結伯みゆ習ひよ
氏[illegible]言ふて[illegible]ふ人ぐ見ハ[illegible]
とふ[illegible]言ふんとふ[illegible]
ぐ[illegible]ハ[illegible]
ふ[illegible]
さわぐ[illegible]ハ滝[illegible]
ゆゑ[illegible]

[illegible]ときわれめよりの人数をもつかべかをせんもん
の[illegible]をこの[illegible]ひ[illegible]ぐナこ[illegible]て[illegible]
勇をせよ[illegible]ぐ[illegible]の[illegible]
[illegible]十[illegible]部の[illegible]
[illegible]の時[illegible]人数を[illegible]
[illegible]をせ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

思案をいたし
十二三の比より弓のけいこを心掛そのゝち
とくに弓一番安房之徳丸国乃軍物語義仏乃
ごとく武勇の人わかり十二三歳より
馬をのりこなし一騎駆をこのむ
後は時義をもつて弓馬と義仏とをもひわしふ
世一流をたてゝ工みくふうをなし
ぐとく此馬をもんにしぶまづ乗ることを習ふ
ものなりとなり。勝をうりて金をゆるしかぐ
いつもじゆんをもつて
をもつてをもつてをもつてをもつてをもつてをもつ
をもつてをもつてをもつてをもつてをもつてをもつ

つづきのごとくなり。かくのごとくやうにて
やうとをぼくをもつゆのきいをのごとく礼法也
うきをぼやぶりてんのまもりすいを要のつほ
ひをかもなれで伊勢くしらく習ひきそむわで
んのごとく日数也礼法格式をゆづり伝ることを
をべくぶをの妙をぶきえむまでも信乃さぶき
とをつくををとつひ嶮をのがり場をとをぶすが
すをわりみをを嗜伝をつく兎を戸義し妖
魅をうぶく河中ををわりをひなりを格式と称ば
義陣おひひ軍をのがともをきをむ○をうをすす
と論をすをして孫虚明相をいをすをすをうを奥義
鬱翼名をの後へをもをのがきをを伝ををををを

を張りその式礼とはまことうとうとうそのとう
しそのほかの諸方他のこと物ぶていわるべそれ
を矢尻射。三十三間堂とは寸半いこれみる間の
こと寸半四方寸或は住ったりの物ぐること城ろうむろい
貴は急なる陣中とこりぞきんこあるは大矢とこぐ
世矢の尻をもつく顔とあげるろ矢をもぐのすぐ
あんこあの穂石なり報矢と射るすを大軍代押
くこの中味方小勢なるのうみいせあんづこるゆけまく
つくく矢つぎのやのこうあれぐふせぐ矢尻射
て味方の軍勢とこそあ中みい遠くすべこ為
ありらく敵をこせくく射ゆこすこあいは一射ば
つれせり合くこのを後ぐ

図ぐ石大矢間のこつを城とせひっと
いのこの城とわくこんぐあせこへば矢ぐこの
こぐ扉とやぐり雑へあとこぐ。時こやひこ
あくあこへの所とやひやくすこ矢にこて
こりこの軍勢もつこそこの膳とあるの城代
こちこぐこくゆちやすんこあ地城とこみ
てせひこいも一方とぐわくこ方こりせひこ
ここ。わここの方こり為こんぐあせんのこ
ここのの間ここの方をきこてみけやつす
あぐかせ雑へ女こべこぐ。やここて
こやこすこぐてせこの城中代石大矢時系
こもの代石大矢代間ここぐりここふ中こ為ハ

秀頼乃運つきて城中ようへ敵をうち込ものも
死生ともの幻のきりをうんせ。きまでども。つもどる命下
とうりうぶとうしも貴口難不知てこゝ叫ん山書
ましもの中間も用ゐ立てうりてやゝず
甲州信玄乃時中間うてゞゝ中ゝ間ゝ
石ひや美濃和ハ命ゝ
武備乃ゝ
行ゝの八命ゝの先ゝ
ゝ四年ゝ八命ゝ
十七歩とゝ
わゞゝ責口と退ゝ
とゝゝ

のゞゝ生ゞ軍ゝでゞ被ゝ
略とゝゝゝ
武藝と習ひてのゝ
ゝ行余力ゝ
行ゝの生ゝ
わゞゝ

第十八信の剛腕ハ軍ゝ
ひゝゝ人乃ゝ
ゝゝ
信ハ
ハ
ゝ

衰なりもうさるる乃剛腹ゆゑ[illegible]へさり呂立元
のゆづえまで此侍をとゝえひのちるゐ[illegible]ハ侍たるゐ
づら使番なるゐ[illegible]ひか[illegible]宰へいち程乃剛腹をうづ
ゐくゆをうづ[illegible]れづ東國乃くくハ皆と方[illegible]と
ちく腹病ゆゑひわるゐ[illegible]ハ皆と方[illegible]と
河四乃[illegible]楠ゆゑ[illegible]成ゐ乃ゆちゐ一人うて行く
ひやうゐ侍ゆゑ[illegible]ざわ[illegible]で行行の剛ゐも腹すゐ皆
ゐゑゑ此剛腹ゆゑうとゆづえうさわで皆ゐづ
乃侍とゝづりうゐひ行ゐ[illegible]みゆゑ[illegible]りと乃老武ゐ
ども後へ[illegible]さわ[illegible]で生ゐうゐ乃ゐゐ侍ゆゑハ何よゐり
ゆゑづゐゐやゐ老武ゐ乃ゆづえよづゐゐみゐ行ゐ
ゆりゆゑづゐゐゐ[illegible]ハ皆ゐ[illegible]ゐ乃ゐ

くくゐわづゐて行ゐ[illegible]ハ腹ゐうて四月ゐ[illegible]○[illegible]
ゐやゐゐゐ侍ゐゆゑ[illegible]れゐ[illegible]ゐ乃[illegible]の[illegible]代侍ゐ
四月ゐ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ゐ日行ゐ[illegible]ゐ書ゐ[illegible]
ゐ乃ゐ[illegible]ハ[illegible]ゐ乃ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ
行ゐゐ[illegible]ゐ四月ゐ[illegible]ハ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
乃ゐ[illegible]ゐ[illegible]ハ[illegible]ゐ乃ゐ合戦
入用ゐ[illegible]ハ[illegible]ゐ乃軍ハ[illegible]ゐ[illegible]ゐ多勢ハ行ゐ
年ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ
ゐゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ
此侍ハ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ
婿馬ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

百姓は人も銭は世間畑つくる人半分の者は銭人よりも銭は世間畑つくる人半分の者は銭人よりも銭は世間畑つくる人半分の者は銭人よりも

奥ふかくとうるやさ衣のそでとうるほす祖は武勇
の家なれども武芸にうとく文学にくらしかりけり
されつゝ乃脇腹なれハ武芸にたゞしかるべき
ありてもなほいとゝ世ともせず剛なる人なれ共
勇なる人にもつゝ武勇ハかゝるものの也こゝに
此年ごろいとゝの人よりゆつるもの祖がゝきとてもあるべ
ちよ用のぐゝ人とうんとえてのすたるべきて
わるべ楠ぐちよ接腹なつ人ものるべしいと成ゝく
人とかゝるまゝなるべしたんぐ侍ゝるよりぐゝるまハ
技おやぐりまゝる也
左功乃侍ゝぐしまぐゝわりけゝる人ハ清盛ともかゝれ
せり合の軍ゝもしゝくゝ仕ゆぐゝゝゝゝる也

今乃世ゝ武ゝゝ侍ハつけよ合戦軍陣乃中をゝ
ぐゝるゝてゝりゝゝゝゝすゝわゝゝゝ何でも一ゝぐゝ
とゝぐゝ。ゝ津とのゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ありてハ思ふよ遠ゝすゝゝゝこのゝゝ今ゝ世ゝ
き侍乃ゝゝゝゝハ老武ゝゝゝゝゝゝゝゝハゝゝゝ
ゝ坂ぐゝゝゝ大ゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝ嫁するものハゝぐゝ生ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
大剛武勇とかゝくのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せんとかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そこくぐ日陽の乃のぐま
わろ侍軍乃塔りて　せめぐれども仕合わくえ日
ひくつも貢成とぞ。その傍軍の侍ぐこと貢とり
ものと。賛牙乃眼指日久て不思ひて帰ま計こと
日陽日こ年わくこ乃れて敵人こ出成とりの活して
ひくふまぐこと　つくもてきくてこぐとこぐ貢と
眼指よ　ぐくわくく乃ものとこうをこれとつをこ場義
波寺山賜こ命こ米ぐこの侍こ乃る批判ちくもくハ
頭と寛とりてわせくハ人乃罪ちりこれこぐふ
人ぐこぐと英雄とこぐこ又敗とこて代拍いとり
あぐこわとけくくハ拍寄ちぐハぐこひ日ぐこくこ
けぐの大對乃こくきわくこちりの指病ちと侍ぐ

こくこのきぐこ乃年代こくこと振指日久こくこハ神ちこ
きこのこくきぐくこくこくこ貢ちこここ乃敵
尾日ちぐきこくこハこくこ乃敵
ちれ黄こくこ心年とこくこ振指ぐり
ちくこくこくこ代拍とぐこりのぐこくこみこのこくこ拍の
すハくこくこくこ代拍とぐこ振ぐこくこ貢とて又振ぐこくこものハ
海こくこきこくこのこくこ他こり逗開乃新みして侍ぐま
こぐきこくこ未陳乃こくこくき歯牙こくこくこくこ
と批判こくこり貢とこくこくこハこくこくこくこくこ
て侍こくこくこくこくこハ比興ちこくこり
第十九乃時ハ人こくこくこくこくこ
こくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
人此中ゝ[illegible]乃ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ハつやく〜仕よをのくぷ〜ろうえいわうゆと
あるあきづ〜男とじ超弱乃使とうつろうてらるど
たるとふものハ侍をとそ〜のく侍をもて浦あの男を
[illegible]寺う善代乃〜〜体まそれて遊敵さんへよ祇人う
又拵ゆ〜亟べきぐやゆぐさ〜体つろとていきぐん
わ〜うをくぷゆとせさわ生いりう〜祇あるよあぐず
ゆるるハ人くとを〜〜のく人と拵ゆるすをぐ〜海と
ゆ〜ぷとよ乃ちこハ拵本体をろ〜ぷぷ〜〜切拵ずぷぐ
きまあぐ縁ゆ〜短ゆ海ぐ生ろも亟ゆ束拵ゆ〜ゆきハ洗裸ゆそ
ゆ〜と拵ゆ〜海ぐ生ろも亟ゆるもそれ〜〜ゆうゆみとまと
騒ゆハ人を〜じゆゆ〜ゆぐの亟ゆ〜〜ゆ亟の〜〜ぷ〜〜ゆ茉
とゆて月ゆず癒稱乃ゆゆ牛房乃矣ゆ〜〜ぷゆまで病ゆ

逆ぐて紙あゆと重寶ゆす
詩日をゆそ人〜〜ぷゆのゆぐ一藝ゆ〜いゆ人〜〜ぷ
一藝ゆ生ぐやぐて重寶ゆり話郷中ゆまを
俗風利ゆ〜〜ゆ生〜〜乃ゆまゆ役ゆ〜ぷゆて俳
ゆ〜〜ゆぐ〜又ゆ人のぐゆいゆの生ぐ分ゆ逆ぐゆ
俗役ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆぐ〜祇ゆ侍ゆ〜ゆ山ゆ〜ゆ生
ゆ〜乃ゆ〜ゆ〜ゆぐゆ〜ゆぐ畢ゆ〜ゆの役ゆ〜ゆ〜ゆ
ゆぐ〜ゆ〜ゆ〜ゆ乃ゆぐ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
ゆ〜ゆ生ゆ〜ゆ迷懐ゆ〜〜ぷ〜〜ゆ〜ゆ〜ゆ
只今ゆ役ゆ仕ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
生ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ仕ゆ生ゆ〜〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

世界なども所地豪商たちの人の宮めぐり
諸鳴物吹乃ゑんもなてぶつせんこまつがらくに
しつくたまりものづくり例わり一義わるゑぬず
つづい用まつ物地名醫の物は敗鼓乃はとを
なてぶとふ中ひい今せ

第二十 侍いんぐてて弓中面ちつつきゆ

ひーちつ人ぬいつ乃侍乃乗車ちゑ云ハ行屋ちく四重
みてそ人とまみそーら寸ぐつーちびかにお遊のちゑ云
とた中とはとあちゑ陽こ中ハ佛を傳通物寸みちちよん
ぎーつ馬ちつもぐくちゑ伝ちおつをやるちぐで
めてくくちゑ西帯所ちてて元とつひ初のちとちとちひ
わぐちり。すぐく博奏事成つちひゆちもくぬゆぐく

創ちちち所ちち風情と乗車と行のちす。ゆとぐくちゑ乃ぐ
地ちりちわぐわづり北国ちせちて何ぞちみちちく
内乃ちんとちちちさぐ乃ちゆてぐまべいとちつを
ちぐちゑ元いわぐ前みゆちーちゆぐちんと。ゆゆわち
所ちちて乗車ちんじやう。ぐ乃ちーくぐ面ちーくそ
ちゑ西れちり所ぐちちぐちゑ元乗車ぐていめちちれども
ちちづぐちーちみちと存はちのつちれい寸ちちよいちち所の
面ちれちーまち知能ちい人山乃ちんちーゆちーまん連歌
ちハ昌隈言仲乃ちち通わり所通ち不足ちけまちも百
人ぐ九十人までハ三連歌侍能ちどおも知ちち伝ちれ也
他方北用わんぬちよいち所ちゑちとちのむぐー行能あんぬけち
みゆ乃ちゆ所ちを利ちーー連歌乃用ちんぬけち昌隈言仲と

れて。同じく合ちんとやがてちんぴらもく代官を
うんせんとうとうとれば。さてもうわるの仕ゝ灯籠のとく
とうるゆ乃紙ゆりづるゆ。扨。東乃伯ハ佛を儒を
ゆ連歌詩歌ゆど紙くとうい。孫。そこづハ百人代官七
十人いくるゆ。ふうるゆ。紙師ゆ通りゆ。それぞゆ。ひゞゆ
のゆ。ゆりるゆ。それぞゆ。ゆ。ゆ。

そうずとしてもみうるうずわる所を問ふ言ふ此時
第十細川藤孝卿ゆくさに連歌師の紹巴よりの
うり歌ふ言ふ翁白ふ
奥ゆかしきかのうりの時堂
と仰せられ紹巴申しうるに入ふるさを時堂
もゆかしきかのうりをうるとうりみて堂はい知らとして時
ハ行ものうりをとゆとしてうれうを問ふ気人わくて
うりひかりのくうも稜が時せんとうづかうがてせ
いをく海ゆとみのうの藤孝のくうわへず
申蔵卿よ藤と幸てうる雨は堂うりかのくをの也
とゆすを上うわううへハ堂も時ものうてうたわうと
作ふ海ううそ。さぶんを海うれうかうも也ふ上ひいハ堂

乃垂よ藤うて時ふ海ふうず雨ふうハ堂ず村の也
いかのあ地堂ゆうきひうりわうかをれとううりう
堂のひううりのうハ時出ものとうふ上ひいれを
ひけをうく堂の時ゆをの業の半
弟兵一貴藤とうゆを業の半
ひうたうの文辛とうるへ。を甲斐のもくとうきうをて
ひんうをやうりもんわる時を藤師ハうをひ
てゆををほハ柳へうを百四藤ハうをうりどううき藤
ゆうとうへうりうりをわうも上ふ年月貴辛の月藤
ひをんうをひ藤治を双ハうゆくわうり一包ゆを地ひをと
ゆうれハ玄三わうをうをひくをうれうをひくをうをうゆ
療治ゆくいうをひ例ふ行ふんとて養年へを食ふ一百ふ

[illegible]類令補身丸と称とうとうとうくめまづ一
瘡治い大ぜんわりぞうりつ一一ぶ

許田わる宰人いろうして今つるが国へ帰るとき
とうひてたえの丞人りく宰人帰系れけ瘡治とと
れ名れでやすきゆうして一服ひつて七一ぶこと月れ宗
ろが国へよびせうれうとうりうてうてうぐうきゆうるつう
吹第うてんと彩〇一ぶ阿よ相穀湯也とうてと
ほうとん中古帰国乃深気いけれうて翁明也

第廿二人ゆとうとうすゆるう別わう半
ひうとうう人ひそうりいう人ゆとうわうぐうしゆくうとうれば
投所一ぶぐ寺てうもうとうやうぶ四うう半き壁ぐ
人ゆうて秘りうふたうとうのかうわぜ落うん不地

ゆうすふとうぐうくうとんゆうう人のりゆも見とぐぜと
て法気ま入うて毛ぐうるぐ云てめうとうすれば毛ぐ
みくいうまーぐるぜ毛うぐけるぐうりうきうてうのき濃
うてうとのわう利うりゆも毛うとうう人坂毛しあげて
うりうとうりゆうとうりうわうとうぐうちうとうを
うりゆうとわうざうりすうりぐにうとうう人ゆを惜
ちぐうせ毛ぐきうよう強うう文うりうとうすゆぐきも
第廿三人を視第と肝要とすうきき
むううう人のうりう人乃ゆう礼茶と肝要こいろも
礼茶と云ハむうい乃人ゆうくゆうのひみゆとぐうくた
こう人乃ゆ一筋ゆうのうてうぶさわぐ男ゆうちハ女乃ゆ
わうゆゆとうぶ女ハ男ゆ法ゆとうあうぐも

礼義とふさりなく[illegible]の汚穢不浄の親の目とうるあり
嫂をどの[illegible]淫[illegible]汚[illegible]死ぬんとすりけるいうりつき
つきみて也とも[illegible]ぜ[illegible]乃[illegible]めうて[illegible]
もも[illegible]とりいつきつきて[illegible]そいぶ礼義ぐさうよいえんやうえ
乃汚穢不浄やうりくあるめあわるるるとやと礼義を
しくり門わもどんば[illegible]すこ女[illegible]の分命とうるのひ
うつくれうそむ[illegible]せて[illegible]世むさ[illegible]傍年[illegible]
俗[illegible]乃[illegible]もいうう世びく奥へくうう[illegible]時賀別わうの
[illegible]てどが[illegible]世せんりうおうに義俗るとがうとれう
うう[illegible]どう[illegible]うう[illegible]き[illegible]せく[illegible]ぬるう[illegible]と[illegible]
う[illegible]りて也そうて[illegible]俗乃礼義とうう[illegible]ひ年う
面りうみづきこきくとうき法うてうへこけるとうびひ

[illegible]兄弟の夫婦老弱[illegible]賤[illegible]俗は[illegible]ず礼をゆうのつ[illegible]
詩曰盲目[illegible]
やしざ[illegible]くよむ[illegible]くう[illegible]戯言をずこ[illegible]ずきうざるを
[illegible]くわるるるべうべうぶつうんやううきいゆーこき老うう
わうきま姫礼わり男女別わりうくわうのて人のうあ
4ううられざうみなこ[illegible]礼義4ゆり礼記よりうく男
女は親[illegible]ず親[illegible]ず嫂[illegible]い問と通ぢ[illegible]ぢるよい席
を[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ

つてのさそるもぐものあるこそとて所もこそ
その礼をこれるが半わりいんやくとして礼をこそ
ひやくしきこそ人の和合さしたる所ゝ方命としろば
すい男女乃中は不礼わるこそ礼わるこそ
ひたすり弟のして礼あるこそのの塗すこそ

第廿四　喧嘩口論乃捉ゝ事

むゝこそ人のこそ所ハ鐵門作ゝ桐紫表者云乃ゝ
こそづきこそ乃ゝ所ゝもきんこそ所敗とこそ
くこそ理必通ゝ仕意ハ家乃こそ実
ゝ銭こそこそこそ也こそ
あこそ十分乃こそ理こそ
ゝこそ乃こそ理こそ

りもすこそ人こそ儀こそ也寄不して書ゝと通分ゝ
ゝすこそ乃こそ理こそ
きこそこそこそこそ
ゝ所こそ仕ゝ方命わやこそ所敗
こそ銭こそ礼こそ
ゝ捉ゝ家こそ
と思ゝ意こそ
乃吟味こそ
ゝきこそ

詳曰喧嘩成敗乃事

ゝこそ仕意こそ
ゝこそ
ゝ事ゝ
ゝ事こそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]